

大平洋金属株式会社
2019年3月期 期末決算説明会

2019年5月21日

当社ホームページ

<https://www.pacific-metals.co.jp/>

お問い合わせ先

総務部（IR担当）TEL:03-3201-6681

1. プロフィール	
(1) 会社概要	3
(2) 業績推移・財務状況推移	4
(3) セグメントの業績推移	5
2. 事業内容	
(1) ニッケル事業	
① フェロニッケル事業	
仕入れから販売まで	6
仕入れ	7
生産	8
販売	9
② スラグ事業	10
(2) その他事業	11
3. 当社に関するQ&A集	12
4. 長期ビジョン（2016年5月10日発表）	14

1. プロフィール ◇ (1) 会社概要

会社概要 (2019年3月31日現在)

事業内容	フェロニッケル・スラグ製品製造販売、 廃棄物リサイクル事業		
創 立	1949年12月		
本店所在地	東京都千代田区大手町一丁目6番1号		
本社所在地	青森県八戸市河原木字遠山新田5番2 (八戸製造所)		
従業員数	456名 (連結) 411名 (単体)		
発行済株式数	19,577,071株		
証券コード	5541 東京証券取引所		
大株主の状況 ※持株比率は 自己株式71,452株を 控除して算出	株主名	株式数 (千株)	比率 (%)
	日本トラスティサービス信託銀行株式会社	2,782	14.26
	新日鐵住金ステンレス株式会社 (2019.4.1～ 日鉄ステンレス㈱)	2,049	10.51
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,002	10.27
	三菱商事株式会社	1,595	8.18
事業規模 (連結) (単位：百万円)	売上高	49,062	
	営業利益	176	
	経常利益	3,451	
	親会社株主に帰属する 当期純利益	3,693	
	総資産	71,933	
	純資産	64,439	
	資本金	13,922	
	有利子負債	-	

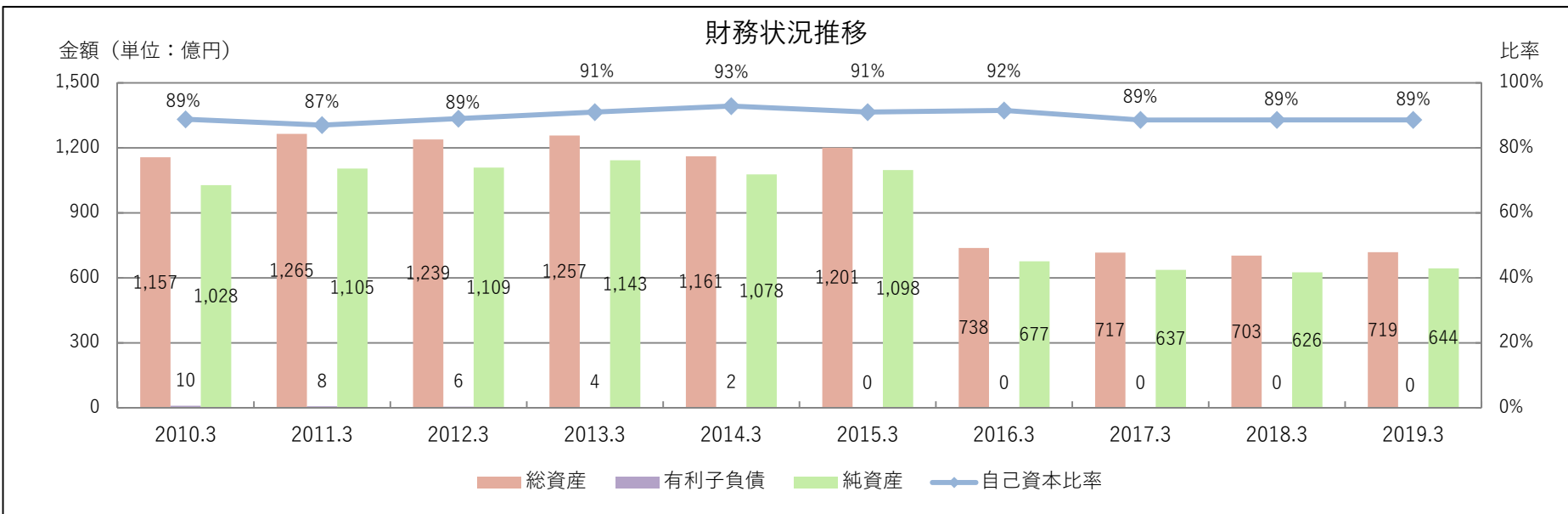
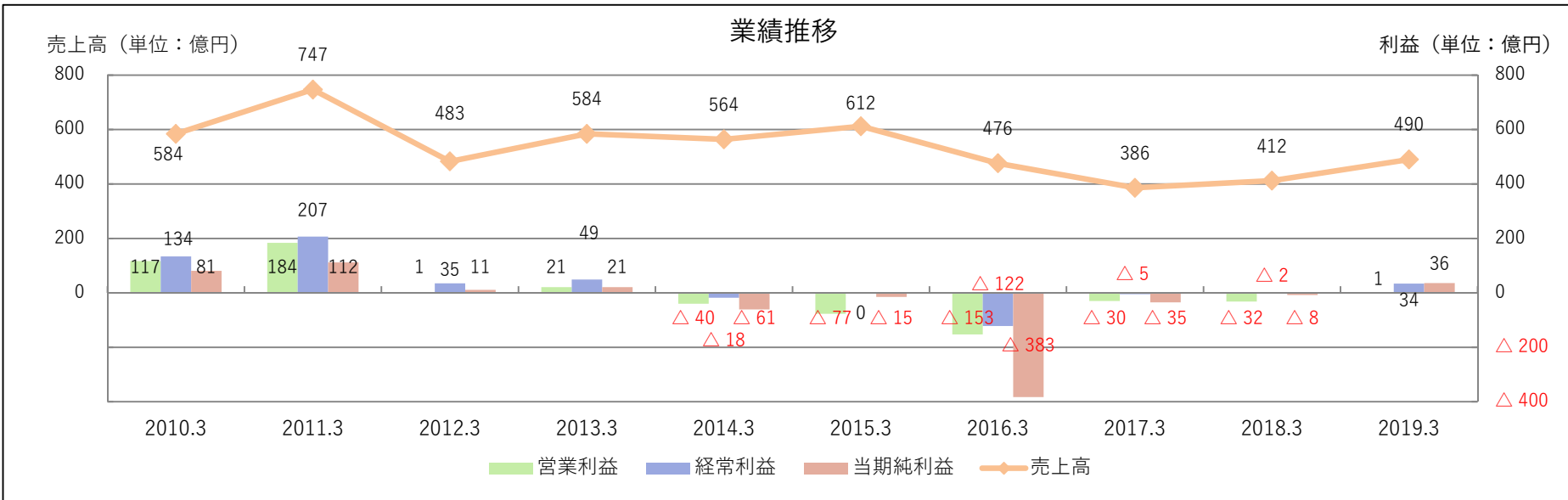
主な沿革

1949年	日本曹達株式会社の鉄鋼部門より独立、日曹製鋼株式会社として発足
1952年	東京・大阪証券取引所へ上場
1954年	フェロニッケル生産開始
1968年	ステンレス生産開始
1970年	大平洋ニッケル株式会社を吸収合併し、大平洋金属株式会社に商号変更
1973年	リチバ・ニッケル・マイング社 (フィリピン) に資本参加、ニッケル鉱山を開発
1987年	タグニート・マイング社 (フィリピン) に資本参加、ニッケル鉱山開発
1995年	八戸製造所 フェロニッケル製錬6万KVA・3炉体制確立
1998年	ISO9002取得、その後2003年にISO9001:2000に移行
1999年	ステンレス事業撤退、本社機構を八戸に移転し、フェロニッケル専門メーカーへ
2003年	廃棄物リサイクル事業開始
2009年	環境ISO14001を取得
2012年	OHSAS18001:2007 取得
2013年	排水終末処理施設運転開始
2014年	統合マネジメントシステム運用開始

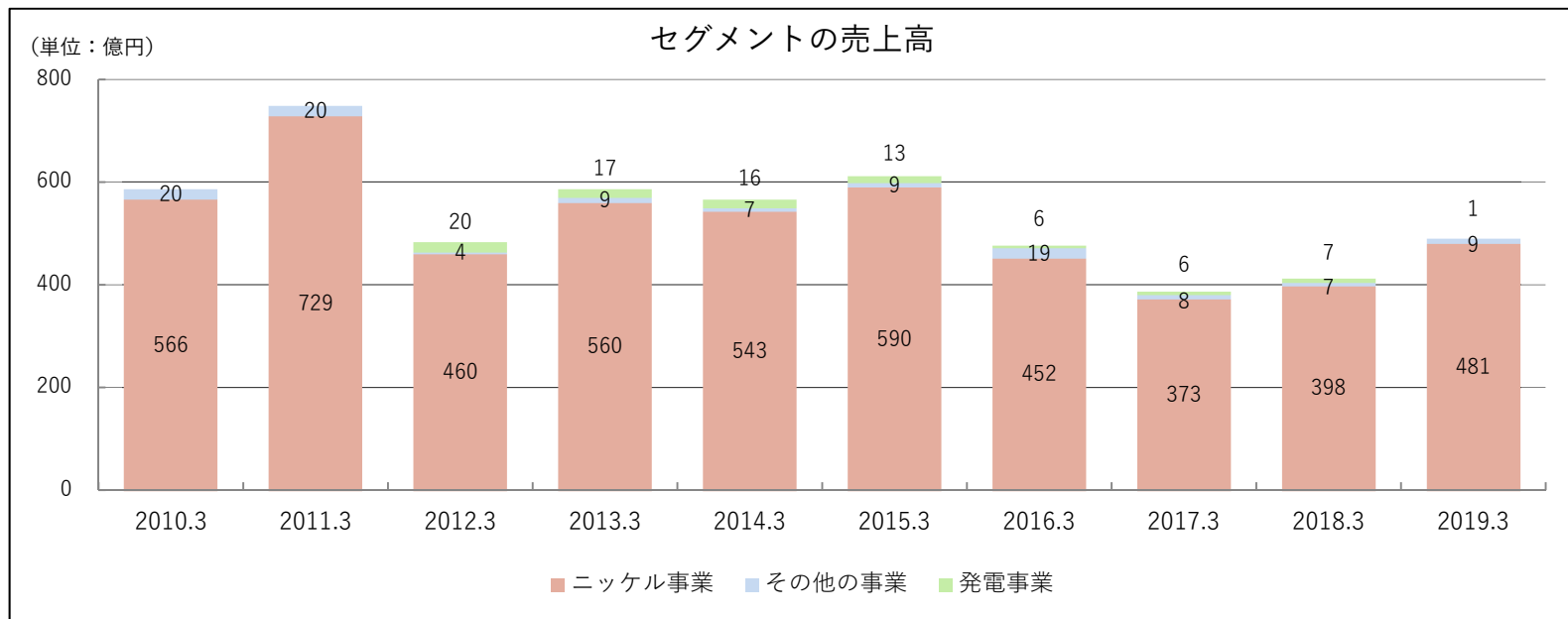


本社 (八戸製造所)

1. プロフィール ◇ (2) 業績推移・財務状況推移



1. プロフィール ◇ (3) セグメントの業績推移

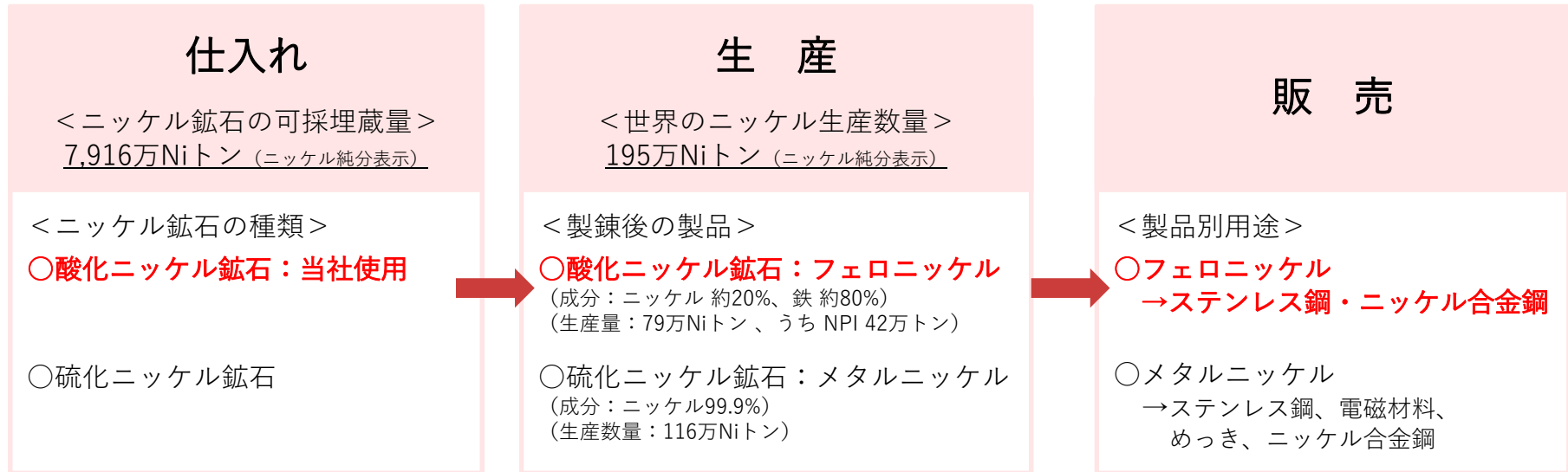


セグメント名	会社名	出資比率	事業内容
ニッケル事業	大太平洋金属		フェロニッケル製品・スラグ製品の製造・販売
	◎ 太平洋興産	74.0%	運搬・請負・不動産関連等
	* タガニート・マイニング社	33.5%	鉱石採掘・販売（フィリピン）
	* リオチバ・ニッケル・マイニング社	36.0%	〃
発電事業	◎ 大太平洋エネルギーセンター	100%	発電事業者
その他事業	大太平洋金属		焼却灰リサイクル
	◎ 大太平洋ガスセンター	50.0%	ガス類の製造・販売
	* パシフィックソーワ	33.7%	鋳鍛鋼品、産業機械等販売

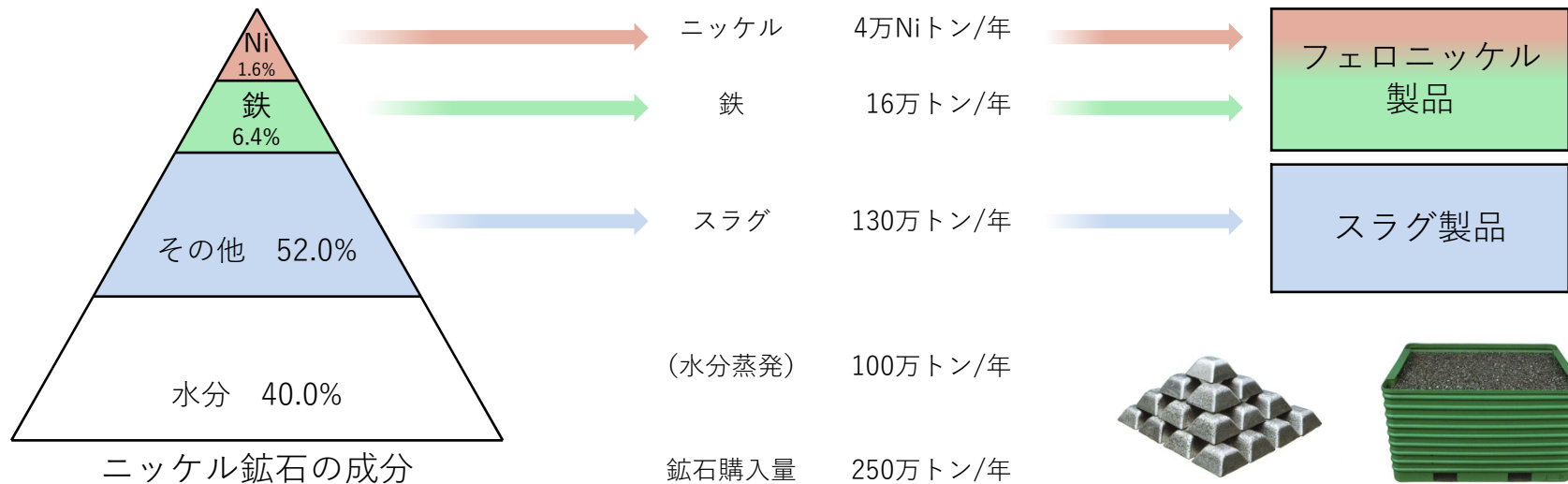
◎：連結子会社 *：持分法適用関連会社

2. 事業内容プロフィール ◇ (1) ニッケル事業

①フェロニッケル事業 ～仕入れから販売まで～

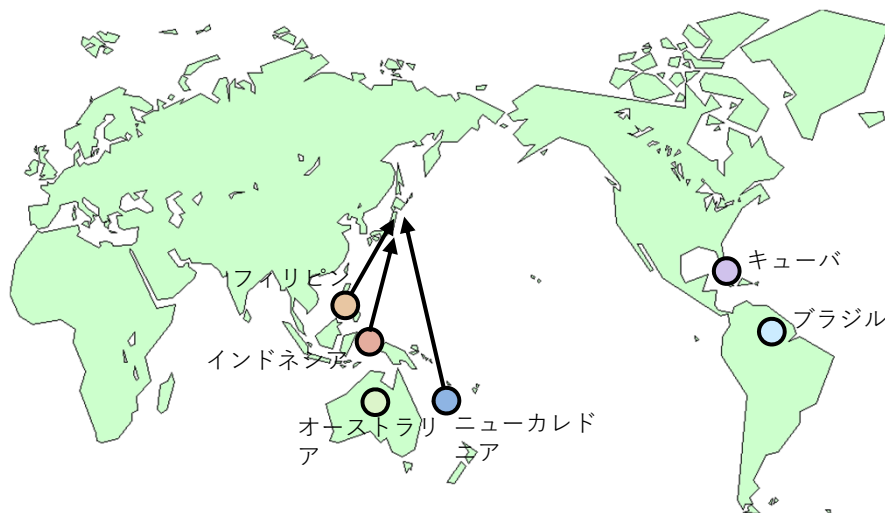
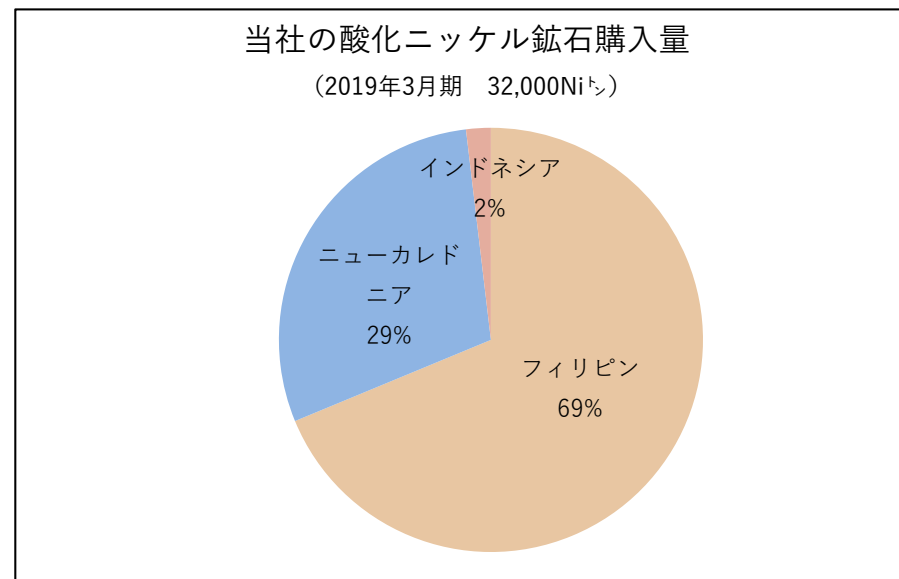
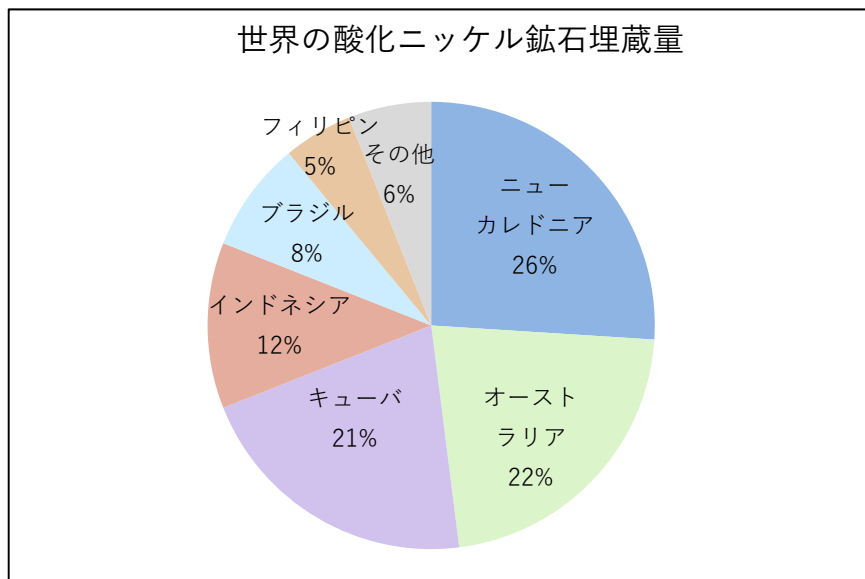


※ニッケル鉱石の可採埋蔵量・ニッケル生産数量は当社調べ



※ニッケル鉱石品位1.6%、ニッケル生産量4万ト/年 とした場合の参考値

① フェロニッケル事業 ～仕入れ～



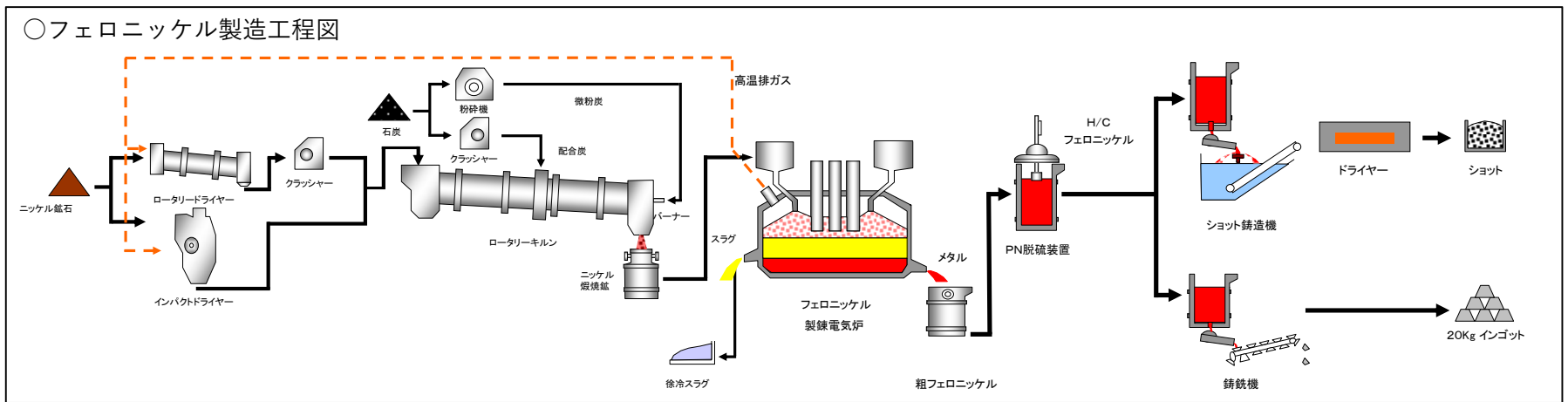
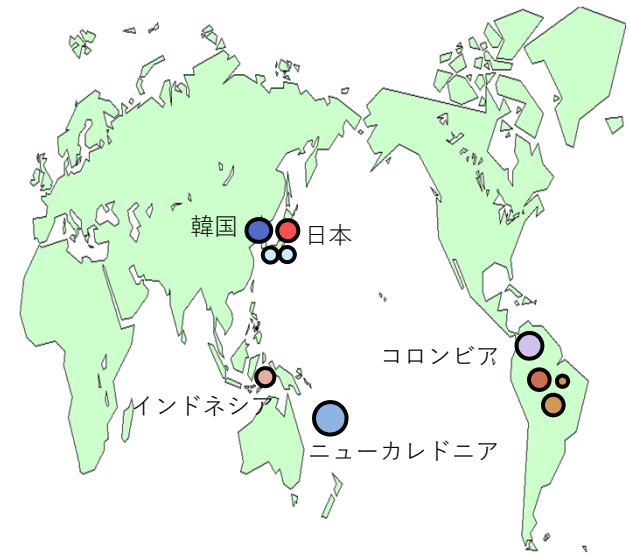
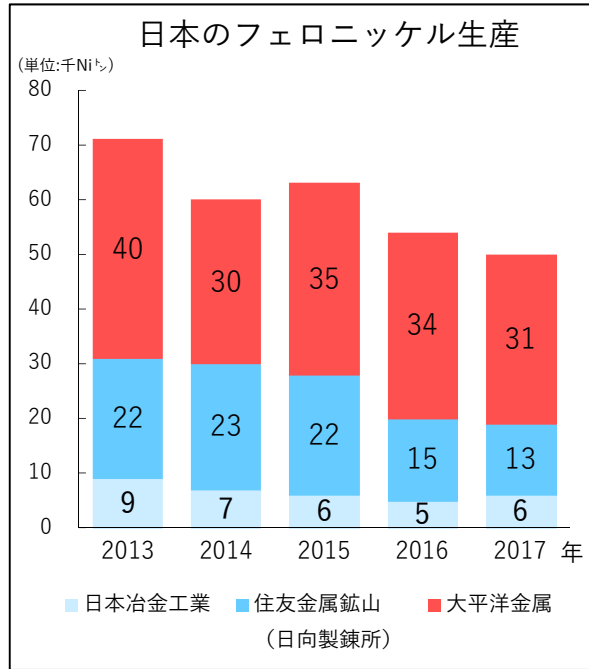
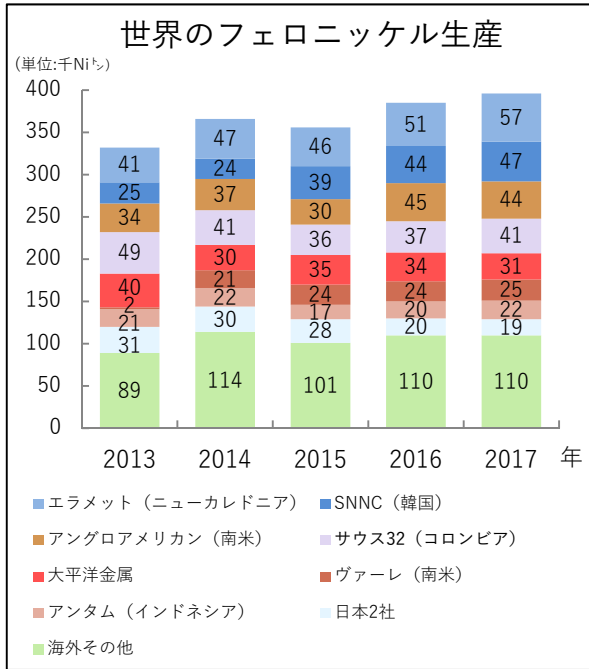
○フィリピン
リオチバ社およびタガニート社は、当社がそれぞれ36%および33.5%の資本参加をしているジョイントベンチャー。鉱山開発当初から全面的な技術的・人的支援および相互交流を続けている。

○ニューカレドニア
モンタニア社とは20年以上の長年にわたる取引関係を継続しており、MKM社には資金提供を含めた諸支援を実施している。双方へ鉱山操業に関わる技術協力を実施し、10年間の長期契約に基づいた安定的な鉱石調達をしている。

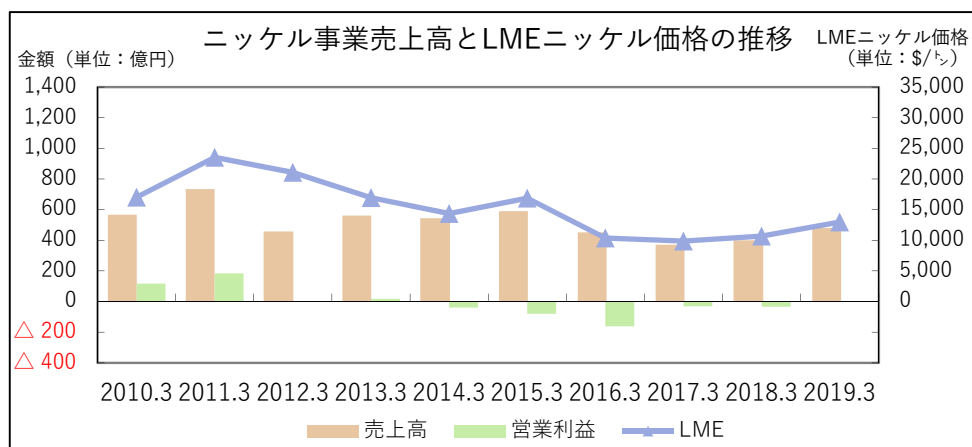
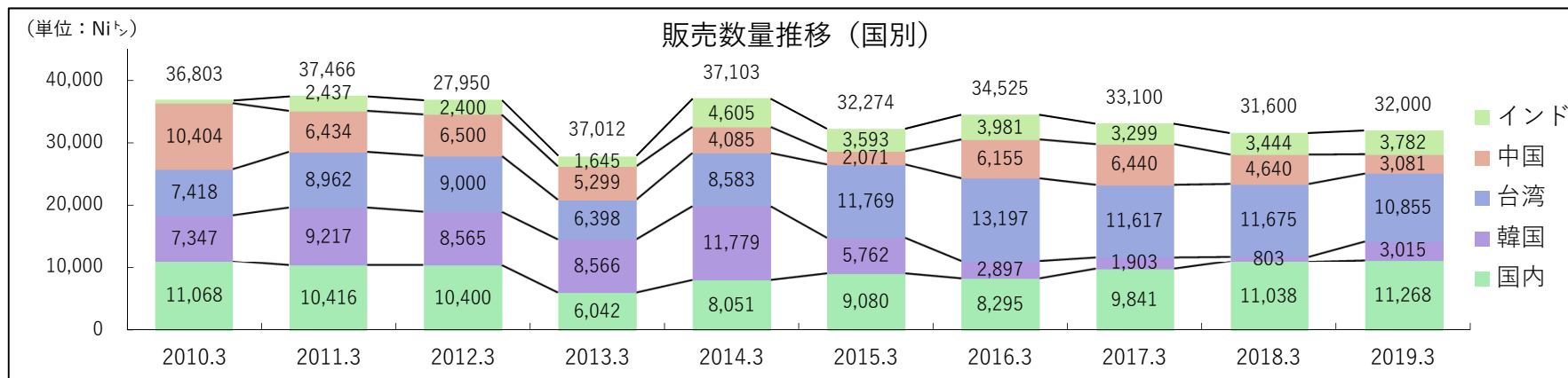
○インドネシア
アンタム社へは、1975年インドネシアで初めてのフェロニッケル製錬工場建設および操業指導に係わるジェネラルスーパーバイザーとして技術援助を行い、現在も探鉱開発に関するアドバイスや炉修等の技術援助を行っている。

※ 2014年1月 インドネシア未加工鉱石禁輸政策実施

① フェロニッケル事業 ～生産～



① フェロニッケル事業 ～販売～



フェロニッケル販売価格の基準

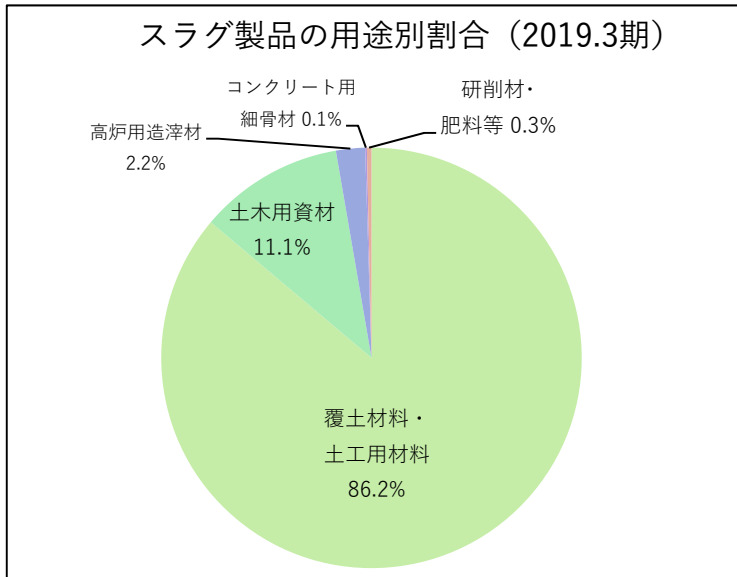
- 国内向け
【LMEニッケル価格(前3カ月平均)】 × 【外国為替相場(前3カ月平均)】
- 輸出向け
【LMEニッケル価格(前月平均)】 × 【外国為替相場(スポット)】

→ 当社収益はLMEニッケル価格に連動

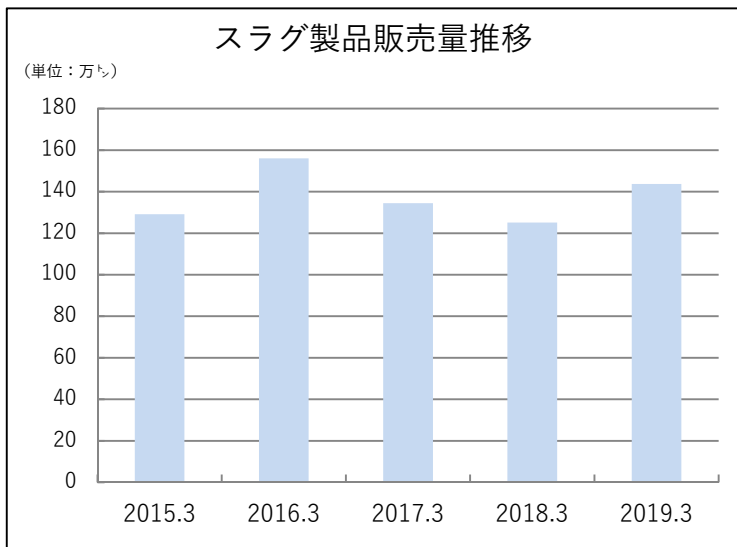
(ニッケル事業)	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3	2017.3	2018.3	2019.3
売上高 (百万円)	56,644	72,954	46,015	56,026	54,302	59,065	45,239	37,357	39,855	48,142
営業利益 (百万円)	11,688	18,391	△18	1,780	△3,978	△7,987	△16,208	△3,129	△3,412	382
LME (\$/ト)	17,020	23,545	21,076	16,947	14,356	16,825	10,372	9,877	10,692	12,985
為替TTS (¥/\$)	93.85	86.72	80.08	84.10	101.24	110.93	121.14	108.64	111.15	110.53

※LMEニッケル価格および為替TTSは、それぞれの決算期間内の平均値

②スラグ事業 ～概要～



用途	主な特徴と効果
(1)覆土材料・土工用材料	軟弱地盤改良覆土に適している
(2)土木用資材	路盤材强度高、凍結融解抵抗性が優れている
(3)高炉用造滓材	スラグ成分調整用副原料として使用
(4)コンクリート用細骨材	粒形が丸い為にコンクリート強度が高い
(5)研削材・肥料等	硬度が高く粉塵発生が少ない為、作業環境に良い



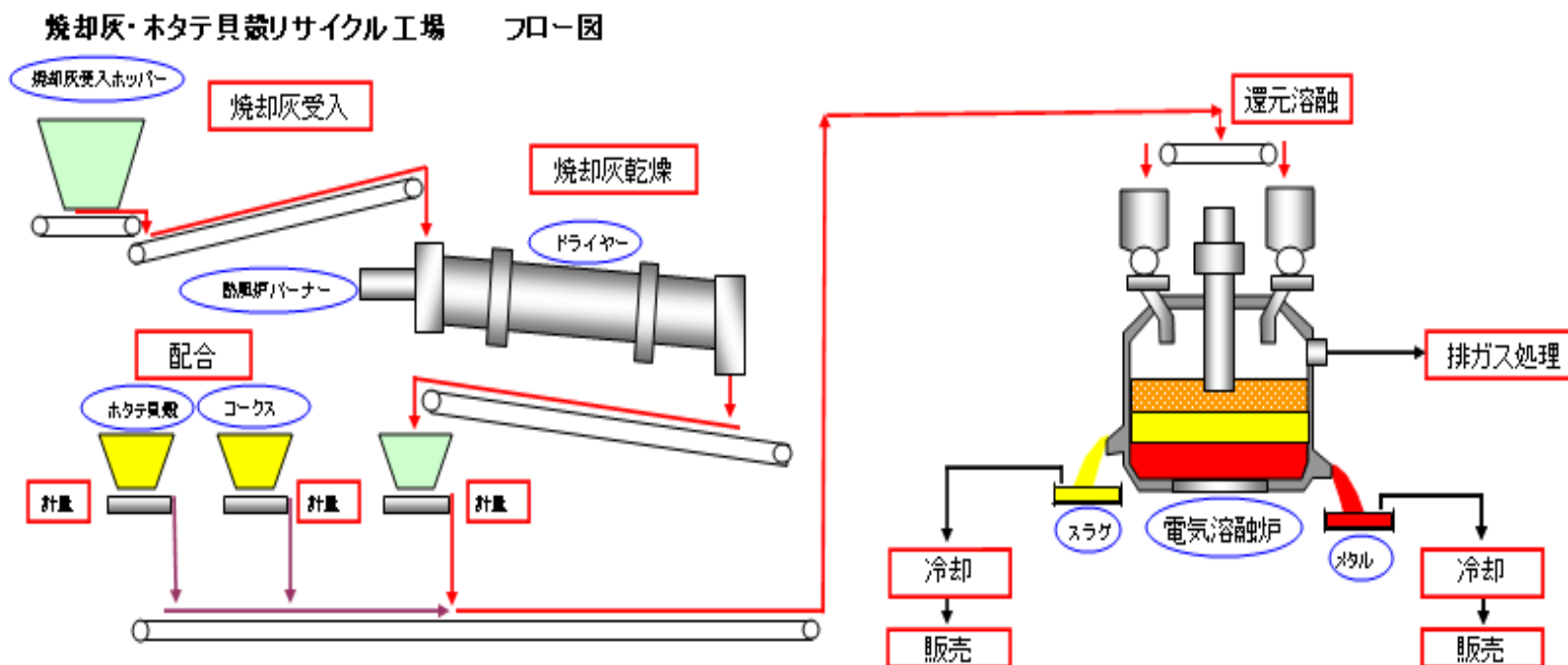
当社スラグ製品施工風景

2. 事業内容プロフィール ◇ (2) その他事業

① その他事業 ～概要～

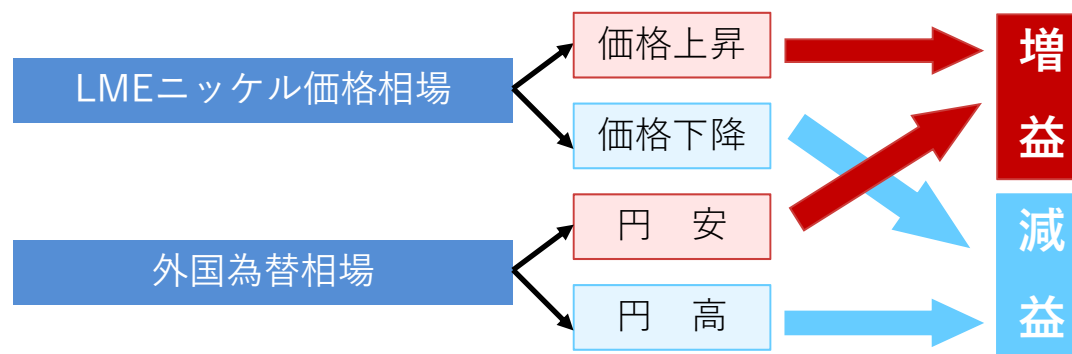
○ 廃棄物リサイクル事業

焼却灰・ホタテ貝殻リサイクルによる溶融メタル・溶融スラグの製造販売
 (用途：コンクリートやアスファルト用の骨材、護岸材、人工海洋石材等)



①LMEニッケル価格や為替は、業績にどう影響するか？

- ・前提：フェロニッケル製品の販売価格は【LMEニッケル価格】×【為替】が基準（9ページ参照）
- ・したがって、LMEニッケル価格の上昇および外国為替相場の円安が、当社にとってメリット。
（一方で、外国為替相場の円安は、仕入れ原材料等の上昇要因となる。）



②コスト要因のうち、業績へのインパクトが大きいものは？

- ・業績に与える影響が大きい順に並べると、
①ニッケル鉱石、②エネルギー（電力・重油）、③フレート（ニッケル鉱石・石炭の輸送）、④石炭 となる。



長期ビジョン

(2016年5月10日発表)

（1）当社の持つ強み



(2) 長期ビジョンとテーマ

テーマ1
収益力

テーマ2
生産・販売力

<長期ビジョン>
**総合力世界トップクラスの
フェロニッケルメーカーを目指す**

（「総合力」とは各テーマすべてに世界トップクラスの優位性を持つこと）

テーマ3
技術力

テーマ4
品質

（3）各テーマの詳細①

テーマ1 収益力

・国際競争力のある価格での利益の確保

- 基本方策 ①あらゆる角度からの **ミニマムコスト** の実現
②更なる付加価値の向上

・収益基盤の強化

- 基本方策 ① **海外展開** を視野に入れた事業の拡大
②新規事業の開発

テーマ2 生産・販売力

・世界トップクラスの生産・販売量の維持・拡大

- 基本方策 ①八戸製造所での **生産パフォーマンスの最大化**
② **資源国との連携強化** における鉱石の安定調達と
製造設備の改善
③ **海外製錬事業** への展開

（3）各テーマの詳細②

テーマ3 技術力

- ・環境に配慮した、世界トップクラスの高効率、低コストの製錬技術の確立

- 基本方策
- ①生産設備の効率性と生産技術の向上の不断の追及
 - ②そのための人財育成と組織の強化

テーマ4 品質

- ・顧客要望への真摯かつ柔軟な取り組みによる高い顧客満足度の達成

- 基本方策
- ①顧客が要望する納期、品質、数量、サービスの速やかな提供
 - ②新たな価値の創出による社会への貢献

大平洋金属株式会社

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。

本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。
